

活動成果報告書

平成25年度（第17回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

会津に避難されている方のための「親子交流会」
～被災市町村及び関係機関と取り組む親子の孤立予防～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

会津保健福祉事務所健康増進課

代表者：宗像 きみ子

勤務先：会津保健福祉事務所

所 属：健康増進課

所在地：〒965-0873

福島県会津若松市追手町7番40号

T E L：0242-29-5508

F A X：0242-29-5509

E-Mail：munakata_kimiko_01@pref.fukushima.lg.jp



◇活動方針

会津地域の借り上げ住宅等に避難している親子が他の避難している親子と出会うことにより、相互交流のきっかけをつかみ、避難生活での孤立を防ぐ。また、参加した親子の心身の健康を促進し、問題等を発見した場合はすみやかに関係機関と連携をとりながら個別支援に繋いでいく。さらに、支援関係機関の協力を得ることにより会津地域での支援ネットワークを強化し、各機関での支援の充実を図る。

◇活動内容と成果

平成23年度に被災市町村からの依頼を受けて借り上げ住宅等の訪問を実施したなかで、乳幼児を抱えた母親が孤立している状況を把握した。このことから、平成24年3月に被災市町村及び各関係機関の協力を得て避難している親子の交流の場として「親子交流会」を開始した。初回は1被災町の親子を対象としたが、平成24年度からは会津地域に避難している全被災市町村の親子を対象として年3回開催している。

平成24年度の実施状況

1. 対象者：会津地域に避難している概ね3歳までの子どもとその保護者等
(4歳以上になるとほとんど集団保育に入っており、親同士の交流、保育士等への相談もできることから3歳までを対象とした。)
2. 開催日時（年3回開催）

第1回	6月27日（水）	10:00～12:00（12:00～13:00までは自由交流）
第2回	9月26日（水）	10:00～12:00（12:00～13:00までは自由交流）

活動成果報告書

第3回 11月28日(水) 10:00~12:00(12:00~13:00までは自由交流)

3. 会場 会津若松市河東保健センター

4. 協力機関

- ・被災市町村(大熊町 檜葉町 浪江町 南相馬市 双葉町 富岡町)
- ・会津若松保育協会
- ・日本助産師会福島県支部
- ・「会津若松なみえ会」(避難者の自主組織)
- ・会津若松市
- ・日本赤十字社
- ・福島県相双保健福祉事務所

5. 周知

- ・被災市町村が広報や個別通知等により周知する。
- ・避難者への健康支援活動を通して周知する。
- ・当所ホームページへの掲載
- ・被災市町村を管轄する相双保健福祉事務所からの周知。

6. 内容(各回の詳細プログラムは別途作成。)

時間	内容
9:30~9:45	スタッフミーティング
9:30~10:00	受付
10:00 開会	親子遊び、おもちゃ作り、読み聞かせ等 (母子分離) 親同士の交流
12:00 閉会	個別相談・情報提供
12:00~13:00	自由交流、相談等 昼食(昼食は持参)
13:00~14:00	スタッフカンファレンス

7. 評価方法

- ・参加者数
- ・参加者の反応、会の運営等(毎回のスタッフカンファレンスにて検討)
- ・参加者アンケート

平成24年度の成果

1. 参加者数 被災3市5町から32組(65名)の参加があった。

子の年齢は0歳児7名、1歳児14名、2歳児5名、3歳児7名

スタッフ数 (延) 42名

- ・被災市町村保健師5名、会津若松保育協会保育士6名、日本助産師会福島県支部助産師4名、看護協会栄養士5名、会津若松なみえ会(避難者の自主組織)ボランティア13名、当所職員9名(保健師5名、管理栄養士1名、歯科衛生士3名)

活動成果報告書

2. 参加者アンケート結果

回収数 28名（親32名中 88%の回収率）

満足度 満足26名（93%） まあ満足2名（7%） やや不満0 不満0

参加者の感想(アンケートから抜粋)

- ・とても貴重な2時間でした。娘より親の私の方が楽しめました。笑ってお話することが気分転換にもなり、また、がんばれるなあと思いました。
娘の楽しんでいる様子を見て、ほっとできました。参加してよかったです。
- ・体操したり、お話を聞かせていただいたり楽しい時間を過ごさせていただいて、とてもうれしかったです。子どももいろいろな環境に慣れるといいなあと思っていたので本当によかったです。
- ・親子交流会に参加できてよかったです。
ママ友ができてうれしいです。
- ・前回に引き続き2回目、息子も慣れるのが少し早くなり、手作りおもちゃも一緒に楽しく作り、遊ぶことができました。親子で一緒に活動できてよい時間を過ごすことができました。
- ・親子交流会は続けてほしいです。
- ・子供と離れての活動でドキドキしましたが、一度も様子を見に来ることなく遊んでいただいてよかったです。なんとかなるんだなあ。大きくなったなあ。
私もいっぱい笑って、ママたちとふれあうことができて楽しかったです。本当、皆さんに感謝です。
- ・いつもべったりで、離れない息子が最初から最後まで私の所に来ないで遊べてびっくりしました。息子もとても楽しかったようです。
私も、レクリエーションが楽しく、リフレッシュできました。
- ・来年も是非交流会をひらいていただければ嬉しいです。
今日で3回目。やっとママたちとお話することができました。
- ・同世代の子供たちとふれあえて、また同じような悩みを抱えていることを話せただけでも、すっきりしました。

3. その他

- ・「親子交流会」という交流の場を設けたことにより、避難して子育てをしている母親が、子育てへの希望を持つことができ、また、心の安定の一助となったと思います。
特に、同じ立場の母親と知り合ったことで友人関係ができお互いの支えとなっている方もいました。
- ・被災市町村には周知等について協力していただき、また被災市町村の保健師が参加することで会津地域に避難している親子の課題や対策について共に考えることができました。
(会津地域に役場機能を置く被災市町村は1町のみです。)
- ・さらにボランティアとして協力いただいた避難者の自主組織である「会津若松なみえ会」メンバーも祖父母的役割を担い、生き生きと活動していました。
- ・「親子交流会」の様子について、新聞、ラジオ、各種被災者支援会議等を通して情報発信し、避難者に対する地域住民の理解を深めることができました。

◇今後の計画

平成25年度「親子交流会」を3回開催。（8月、9月、11月）

参加者：被災4市町から28組（58名）の参加があった。スタッフ数：延べ37名

特に母親のリフレッシュと交流に力を入れたプログラムで実施。平成26年度も継続開催予定。

「特にPRしたいこと」

- ・被災市町村及び各関係機関と連携して実施している。
- ・避難先の子育て支援事業の活用と並行して避難者同士の交流の場を持つことが必要である。
- ・借り上げ住宅等への家庭訪問による実態把握は不可欠である。

以上